

公共施設に対する思い(「これからの公共施設を考えるワークショップ」)

分類	内容(第1回 11/26)	内容(第2回 12/17)	
施設のビジョン、 施設整備の視点	1 風土に根ざした長持ちする美しい建物を！	1 何回でも利用したくなる魅力のあるものにする。	
	2 若い世代が楽しく集える場所	2 氷見に人が集まるようにする。	
	3 使いやすく、楽しく元気になる場所	3 何のための施設か？その目的・役割が達成されているか？	
	4 長い年月利用できる建物にして、子どもから大人まで利用できるように。	4 利用価値(利用率、喜ばれる)。	
	5 ひとつの施設で色々な楽しみができるように。	5 立派でなくても、色々な年代の様々な人々が集う施設(=本当に必要とされる魅力ある施設)。	
	6 ジャンルを問わない複合施設(家族で利用できるもの)	6 子どもたちが大人になったとき、昔の人は良いものを作ってくれたと思われる施設。	
	7 建てるだけでなく、その後のサービス提供についても向上心を備えた施設	7 氷見市民でよかったと思う施設。	
	8 いろいろな視点から考慮された、長く快適に利用できる施設	8 利用者に喜ばれる施設づくり。	
	9 いつまでも皆に喜ばれ、多くの人々が利用する施設	9 多様なものがある施設。	
	10 とにかく市民にたくさん利用されること→利用されることは、使用者・施設どちらにとっても「幸せ」なことである。	10 年代別のこだわりなく、老若男女が利用できる。	
	11 人口減少予測にあわせた施設の検討	11 氷見らしさを表現でき、他地域にない本物。	
	12 長期的なビジョンをもって公共施設を設ける	12 市民から愛される、市民が誇りをもてること。	
	13 学校、警察、病院、保育園、老人ホーム。管理できないもの、余分なものは作らない。	13 魅力があり、多くの市民が利用できること。	
	14 市民(お客様)目線で見直す	14 将来の財産になること。	
		15 住民にあった施設。	
		16 公共施設の魅力(リピーターを増やす)。	
		17 市外に行かなくても、家族、子どもが楽しめる施設・場所。	
		18 市外、県外の人を呼び込む施設(合宿等で利用)。	
		19 市民みんなが愛着を持てる、魅力的な施設。	
		20 子どもたちが大人になったときにも元気で動いてくれている施設。	
		21 必要だとしている人たちの背景を知る	
		22 30年先のニーズに応えることができる施設(リニューアルに耐えられるもの)	
		23 「維持する」、「長期間使用できる施設を作る」の観点。	
		24 自分事にする。	
施設の運営 手法	利用料金 等	15 タダはだめ！いけいけドンドン×→株式会社方式、パスポート方式などを活用し、長期的視点により考える。	
		16 統一する(料金、予約方法、空き状況)	
		17 施設利用の有料化(パスポート)	
		18 利用料金を少しずつ出してもらおう(年間パスポート方式でもよい)。	
		19 施設利用については有料とする(維持管理費とする)。 →自分の施設としての認識が高まり、大切に使用。ごみを出さない。	
	維持管理・ 修繕	20 維持コストの削減	25 長期的利用を考えたメンテナンス。
		21 維持管理のマニュアル化	26 メンテナンスのルール化。
		22 市の施設は建てるのに力を入れているが、メンテナンスには力が注がれていない(長期的視点にたった運営)。管理を含めたしっかりとした計画のもとに作ってほしい。	27 メンテナンスに関する予算確保。
	運営主体		28 必要性に応じた早めのメンテナンス(経費の削減)。
			29 誰が運営すべきか？
その他		30 民間に委託する。	
	23 維持管理費のことを考えて公共サービスをおろそかにしない。		
	24 公共も民間もない。全部民間。		
情報の把握	25 利用状況の把握・公表、基準づくり(例:利用率30%未満原則廃止)	31 利用者が少なくても、それを必要とする人がいれば残す。	
	26 ランニングコスト把握・公表	32 費用対効果を念頭に。	
	27 資産価値確認(簿価、時価)		
	28 費用対効果が一番重要		
	29 利用人数、維持費等により必要性を数値化。数値が悪い施設は閉鎖。		
	30 公共施設はただではない。		
ルール・手順	31 設置(建設)基準→施設を増やさない。	33 各論の議論の際の施設区分の明確化(市全体、区・町など)。	
	32 「30年後を考える」は長い。10年でよい。ただし、次の人がまた10年後を考え、その次の人も10年後を考えるというサイクルにより、施設の利用方法をそのときの考えで見直す。	34 財源の担保。	
	33 人口分布に基づいた施設設置(交通の便等)	35 将来の負担にならないこと。	
	34 当面と将来の構想を決める。グランドデザインとの整合性を(旧朝日丘小、市民会館、旧市庁舎、旧市民病院)。	36 見直しは思いっきり。	
	35 土地利用を考えて計画検討する。	37 無駄をなくす(利用しないものは早く取り壊す)。	
		38 一部は処分も必要。	
施設形態	複合化・ 集約化	36 違う機能のものを特定の範囲に集める=家族で一日過ごせる空間	39 規模や立地はよく検討する。集中と分散。
		37 必要な機能は、できるだけひとつにまとめる。	40 公共施設をまとめる。
		38 一元化の推進	41 今ある施設を見直し、統廃合を推進。
		39 使用できる物件、できない物件を分けて、使用可能な物件を利用して、少数の施設でいろいろな行事等をこなす。	
	転用	40 更新施設は別施設として再生する。	
市としての魅力		42 小矢部市は、日本有数の世帯あたり高収入市。まねをするにはどうすべき？	
		43 ふるさと納税の魅力アップ(贈答品)。	
個別施設		44 市民会館を駐車場に。	